

第2回及び第3回「新時代における徳島県公立高等学校の在り方検討会議」概要

- 1 日時 第2回 令和3年3月19日(金) 午前10時から正午まで
第3回 令和3年5月31日(月) 午後1時から午後3時まで
- 2 出席者 委員 15名中(第2回は14名出席, 第3回は13名出席)
県教委 教育次長, 教育創生課長, 事務局員4名

3 検討会議委員から出された主な御意見

※スクール・ミッション 県教委が定める各高校の存在意義や期待される社会的役割
スクール・ポリシー スクール・ミッションを受けて各高校が定める教育活動の方針

(1) 徳島県版「スクール・ミッション」の策定について

- ・スクール・ミッションの策定にあたっては、学校側と意見交換をしながら、実効性のあるものにしてもらいたい。
- ・その学校の特長が伝わってくるような言葉や、チャレンジングなミッションなどを掲げることで、普通科の特長を表し、イメージしやすくする必要がある。
- ・各高等学校の案にあるように、「地域」「グローバル」などのキーワードを盛り込むことは、徳島教育大綱の基本方針に対応しておりの確である。
- ・スクール・ミッションは理念、スクール・ポリシーは具体的な取組を示すものであり、これらは両輪のような形で考える必要がある。

(2) 「スクール・ミッション」, 「スクール・ポリシー」の広報の在り方について

- ・QRコードを多用しながら、制服やPR動画等がすぐに見られるようになっており、見やすさ・分かりやすさの視点から工夫が凝らされている。
- ・中学生や保護者にダイレクトに伝え、県外へ広報することも視野に入れて、ホームページだけでなくSNSも活用した方が良いのではないか。
- ・高校の体験入学がコロナ禍で開催が困難な中、動画による情報提供や入試広報に、より一層取り組み、中学生の高校に対する理解が深まるようにしてほしい。

(3) 「スクール・ポリシー」に基づく教育活動の評価について

- ・学校運営協議会を有効に活用し、学校関係者の意見を評価に反映させて、スクール・ポリシー及びそれに基づく教育活動の改善につなげてほしい。
- ・スクール・ポリシーに基づく教育活動の評価は、学校の教員が「評価疲れ」を起こさないよう、「学校評価」を活用しながら評価すればいいのではないか。
- ・「入学者の受入れに関する方針」に係る取組の評価は、当該生徒が入学後しばらく経って活躍しているかなど、継続的に見ることで可能になるのではないか。

4 「スクール・ミッション」, 「スクール・ポリシー」の活用

各高校のスクール・ミッション, スクール・ポリシーは、高校を選択する際の判断基準や入学に向けた目標として活用いただくため、「生徒募集案内」に記載するなど、積極的に広報していく。